

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1198

令和8年1月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



正月桜（寒桜）（鶴見緑地公園・大阪市内）

新年のご挨拶：近畿中国森林管理局長

トピックス：現地検討会（治山事業地でのシカ被害対策）を開催しました。
（和歌山森林管理署）

ニュース：鳥取森林管理署、兵庫森林管理署、三重森林管理署

花草木：サルビア・ミクロフィラ

我が署のスタッフ：石川森林管理署

森林事務所等紹介：松江・横田森林事務所（島根森林管理署）

国有林最前線：広島森林管理署



謹 賀 新 年



新年のご挨拶 近畿中国森林管理局長 上口 直紀

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては新年を迎え、ますます清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、大阪・関西万博が開催され、大屋根リングをはじめ多くの施設において木材が利用されました。木材の魅力が広く発信され、木材利用への関心が一段と高まった年でもありました。



また、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度（SHK 制度）に、新たに木材利用の効果を位置付ける方向性が取りまとめられました。これを契機に、林野庁では、自治体・企業・団体の皆様が木材利用の推進やその効果の「見える化」に取り組むことを宣言する『『森の国・木の街』づくり宣言』の募集を開始しており、皆様の積極的な参画を期待しております。

さて、豊かな森林資源を次世代に確実につなげていくためには、林業の低コスト化を進めることが不可欠です。弊局では、伐採から再生林・保育までの収支をプラスに転換する「新しい林業」の実現に向けて、令和4年度から下刈りの省力化や収穫調査の効率化、低コスト鳥獣被害対策など、多様な実証に取り組み、得られた成果については、管内の森林管理署等で開催する現地検討会等を通じて民有林関係者の皆様へ普及等を行っております。

昨年は、昨今の森林に対する二ホンジカ被害対策へのニーズを踏まえて、管内の署等においてシカ被害対策に対する現地検討会を7件実施したほか、ICT 技術を活用した事例等を紹介させていただきました。

詳しい情報につきましては、弊局ホームページにも掲載しておりますので、ご覧いただけると幸いです。

ホーム > 近畿中国森林管理局の森林・林業再生に向けた取組 > フォレスターの活動状況 > 年度別現地検討会
<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/sidou/foresuter/nendobetu.html>



令和8年は午年です。午年は、行動力が高まり、新たな挑戦に適した年とされています。本年は、森林・林業基本計画の変更の年でもあり、新たな計画策定に向けた議論が進んでいます。弊局としても、森林資源の循環利用の実現に向け、新たな取り組みに挑戦していきたいと考えております。

本年も、国有林野事業への一層のご理解とご協力をお願い申し上げるとともに、皆様のご発展とご健勝を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



雲海に囲まれた備中松山城（臥牛山国有林）
がぎゅうざん

現地検討会（治山事業地でのシカ被害対策）を開催しました。

【和歌山森林管理署】

和歌山森林管理署では、平成 23 年に発生した紀伊半島大水害の復旧工事を^{しものたに}行っている下モ谷西側地区において、シカによる深刻な食害への被害防止対策を実施しており、令和 7 年 11 月 18 日（火）に農林業関係者を集めた現地検討会を開き、課題や対策事例等について意見交換を行いました。

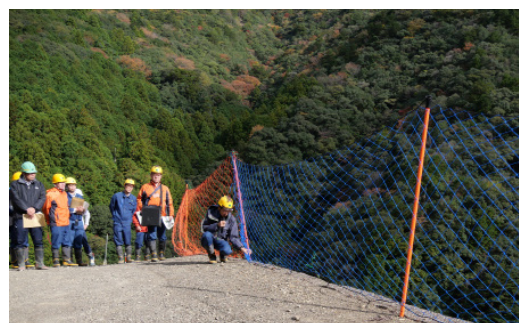
当日は、秋晴れのもと約 80 人の参加者があり、（ア）竹を使用した新たなシカの侵入防止対策、（イ）獣害防護柵の色の違いによる視認性検証や効率的な見回り方法、（ウ）地域の苗を使用した植栽等、試験的に実施していることを紹介しました。また、開発メーカーによる（エ）姿勢制御機能付き電動クローラー型 4 輪車の走行デモンストレーションを行いました。



管内の民有林直轄治山事業の概要説明を行った後、下モ谷地区の災害発生状況や工事概要を説明しました。



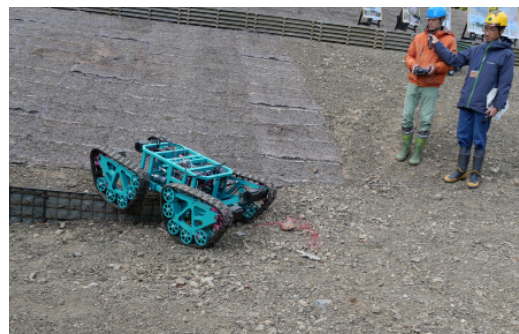
（ア）竹を使用した新たなシカの侵入防止対策、施工当時の様子（平成 30 年撮影）



（イ）防護柵下部からのもぐり込みを検知できる新たな点検方法を説明しました。



（ウ）アニマルネットによるシカ柵と地域苗植栽を説明する様子



（エ）4 輪車走行の様子

これらの技術は治山事業だけでなく、造林事業や農業分野等においても応用できることから、幅広くシカ被害対策の技術交流ができたものと考えられます。

現在は試験的に実施している段階ですが、将来、緑彩る山へ復旧することを願いつつ、今後も引き続きシカ被害対策に貢献していけるよう、取り組んでいきます。詳しくは下記ホームページをご覧ください。



集合写真

ホーム > 森林管理局へようこそ > 森林管理署等の概要 > 和歌山森林管理署 > 情報コーナー > トピックス（実施済イベント情報など） > 和歌山森林管理署現地検討会（治山事業地でのシカ被害対策）が開催されました

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/wakayama/information/251127.html>



鳥取労働局との合同安全パトロール及び労働安全連絡協議会を実施しました。

【鳥取森林管理署】

鳥取森林管理署では、令和7年10月17日（金）、鳥取労働局と事業発注者である当署において、労働災害の防止に向けた取組の連携を図ることを目的に、合同で安全パトロール及び労働安全連絡協議会を実施しました。

同日午前の安全パトロールは青木^{あおき}国有林（智頭町）の林道改良工事箇所を実施し、鳥取労働局から健康安全課長及び地方産業安全専門官、当署からは署長外4名が参加し、当署の監督職員から同工事の概要や安全対策を含めた作業概要の説明を行った後、安全パトロールを行いました。



安全パトロールの様子（工事箇所の確認）

そのなかで鳥取労働局から令和6年鳥取県内の建設業における労働災害発生状況について説明があり、災害要因として墜落転落・転倒が約5割を占めていることから、はしごを使用する際や転落のおそれのある箇所の転落防止措置など、安全対策や作業環境の改善等について指導を頂きました。

午後は、場所を当署会議室に移して、鳥取労働局と当署の関係職員による労働安全連絡協議会を開催し、労働安全防止に係る取組について、情報交換を行いました。

労働災害ゼロは関係者すべてが願うところであり、今後とも、労働行政との連携を密にし、発注者としての責任を果たしながら、請負事業体とともに労働災害の未然防止に努めてまいります。

瀬戸内海国立公園六甲地域子どもパークレンジャーに初参加しました。

【兵庫森林管理署】

兵庫森林管理署では、令和7年11月8日（土）、神戸市に所在する摩耶山で開催された環境省近畿地方環境事務所主催の「瀬戸内海国立公園六甲地域子どもパークレンジャー〜摩耶山の自然を楽しもう！感じよう！〜」に講師として初参加しました。

当日は、秋晴れで心地の良い天気の中、小学4～6年生の4名がイベントに参加しました。

当署は、^{まやさん}摩耶山国有林に設定されている摩耶山天然スギ希少個体群保護林について、六甲山系の自然環境を象徴する極相林であること、天然スギやアカガシ等の胸高直径100cm超の巨木や希少な動植物が生息していること等を説明し、紙テープを使って天然スギの幹の周囲長を体験しました。



天然スギの幹の太さを体験しました

参加者からは、紙テープで天然スギの幹の太さを体験したことが印象に残ったこと、スタッフの方からも、摩耶山に保護林があることを知らなかった、神戸市街地から近い山で立派な天然スギが見られることに驚いた等、イベントを通して身近な国有林や保護林について関心を持っていただくことができました。



集合写真

兵庫森林管理署では、今後も積極的にイベント等に参加し、国有林の果たす役割や活動内容等をより多くの皆様に知っていただくため、情報発信してまいります。

『第20回青少年のための科学の祭典 2025 亀山大会』に出展しました。

【三重森林管理署】

三重森林管理署では、令和7年11月22日（土）、三重県亀山市若山町の市青少年研修センターで、科学を通じて、子どもたちが自然科学に触れ面白さを楽しみながら体験することで、より科学を知るということを目的に開催された「第20回青少年のための科学の祭典 2025 亀山大会」（主催：同実行委員会、後援：伊勢新聞社ほか）に出展しました。



森林管理署ブースの様子

会場では、当署の「木の実でクリスマスツリーをつくらう」（木工体験）や丸太切り体験のほか、「炭酸水素ナトリウムの熱分解の仕組みを知ろう」と題した、砂糖と水、卵白に重曹を混ぜて熱で温めて作る「カルメラ焼き」、液体窒素を使って風船の形の変化を確認する実験など、計23ブースで体験を楽しんでいただき、来場者数は662名という大変な賑わいでした。



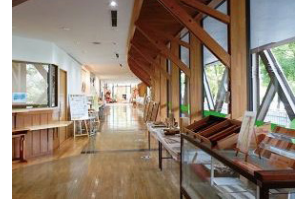
木の実で木工体験

丸太切り体験

子供たちは科学の不思議さを楽しみながら学び、「こんなに周りには科学が溢れていたんだ」「保安林の大切さが分かった」などの感想が述べられ、これからの未来を担う子供たちに自然に触れる楽しさや、保安林の大切さも伝えることができ、また国有林、森林管理署のPRにもつながった有意義な1日となりました。

三重森林管理署では、これからも地域のイベントに参加し国有林のPRに努めてまいります。

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

ホーム＞報道・広報＞イベント情報＞森林（もり）のギャラリー

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○令和7年度森林・林業交流研究発表会を開催します。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム＞報道・広報＞イベント情報＞森林・林業交流研究発表会

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



【森林整備課】

○「特定苗木の普及促進に向けた生産協定」の実施に係る公募について

詳しくは下記のホームページをご覧ください。


ホーム＞申請・お問い合わせ＞公売・入札情報＞入札情報 企画競争・公募情報＞「特定苗木の普及促進に向けた生産協定」

の実施に係る公募


<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/apply/publicsale/seibi/20251201.html>




【林野庁】宣言いただける自治体・企業等の募集しています。



「森の国・木の街」づくり宣言



「『森の国・木の街』づくり宣言」とは
自治体や企業等の皆さまが
①建築物の木造化などの木材利用の推進
②木材利用の効果の見える化
に取り組むことを宣言するものです。



詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム＞分野別情報＞「『森の国・木の街』づくり宣言」

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/rinyahp/20251001-1.html>



花草木

【サルビア・ミクロフィラ】

サルビア・ミクロフィラ（*Salvia microphylla*）は、シソ科アキギリ属に属するアメリカ南部・メキシコに分布する低木性のサルビアで、大きくなると高さは1.5mほどになり、こんもりと大きく茂ります。茎の先端から花穂を伸ばして、ちらほらと花を付けます。1度に咲く花数は少ないですが、茂ってくるとたくさん花穂を出し、初夏～秋まで咲き続けます。基本種の花色は鮮やかな緋色で非常目立ちます。葉は軽くもむと甘みのあるフルーツのような香りを放ち、ハーブティーやポプリに利用できます。

サルビア・ミクロフィラの花言葉は「燃ゆる思い」です。



大阪市内の公園で咲いていたサルビア・ミクロフィラの花

我が署のスタッフ 石川森林管理署

鈴木 友李（すずき まり）（令和7年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループで経営・資源活用担当として、素材生産事業に係る事務手続きや車両の管理、立木や素材の販売業務等を行っています。特に素材生産業務は、頻繁に現場を見に行き、進行状況や次の日の予定等を常に把握し、現場の状況に柔軟に対応することが大切です。どの業務でも、先を読んで仕事を進めることの重要性を日々実感しています。また、森林ふれあい業務等にも参加し、担当業務以外の知識や技術を身に付けるように心がけています。

【職場の雰囲気は？】

石川森林管理署は、明るくフレンドリーな方が多く、にぎやかな職場です。また、分からないことがあれば上司や同僚が丁寧に教えてくださるので、のびのびと業務に取り組めます。

【林野庁の魅力は？】

国有林という広いフィールドで、森林整備や治山、生物多様性保全といった多様な業務に関われることだと思います。また、山に入ることが好きなので、多いときは週に4日以上現場へ行けることが魅力的だと感じています。



里山再生プロジェクトでのポット苗作り（輪島市）

森林事務所等紹介

松江・横田森林事務所（島根森林管理署）

主任森林整備官 安田 裕二（やすだ ゆうじ）

松江・横田森林事務所は、島根県東部に位置する国有林約 2600ha（3 市町）、官行造林約 1100ha（6 市町）を管理経営しています。人工林率は約 60%、天然林率は約 39%となっており、間伐等の森林整備事業を実施している一方、天然林などの自然景観等を活かした登山道が整備されるなど、森林の持つ公益的機能の発揮に重要な役割を果たしています。



森林整備事業の様子



落ち葉であざやかに彩る登山道（船通山^{せんつうざん}国有林）

森林事務所が所在する奥出雲町は、古事記や日本書紀に「スサノオノミコトが降臨した」と記され、出雲神話発祥の地となっており、国有林はこれらに関連した名称や舞台とされるなど、日々の業務で神話の世界を身近に感じることができます。

奥出雲町は、「たたら」と呼ばれる製鉄技術を極めた日本産業の礎の地でした。この「たたら製鉄」により鉄の生産と農工具刃物造が盛んに行われたことから、町内には包丁作りができる施設や、日本刀鍛錬の実演など、この地域特有の歴史を体験することができます。



船通山^{せんつうざん}と麓の田んぼ

また、たたら跡地を棚田として再生させて生まれた「仁多米」や、鉄の運搬、農耕などを担った和牛「奥出雲和牛」の産地となっています。

さらに、木炭をつくるために管理されてきた森林は「しいたけ」の原木供給林としても利用され、森林を伐採した跡で「そば」が栽培されるなど、たたら製鉄に由来して農業・林業・畜産業が自然と共生しながら生まれた、魅力満点の特産物にあふれています。

ぜひこの機会に訪れてみてはいかがでしょうか。

シリーズ『国有林 最前線！』

シカによる被害発生地域での取組について

～各種シカ防護柵の比較検証～

広島森林管理署

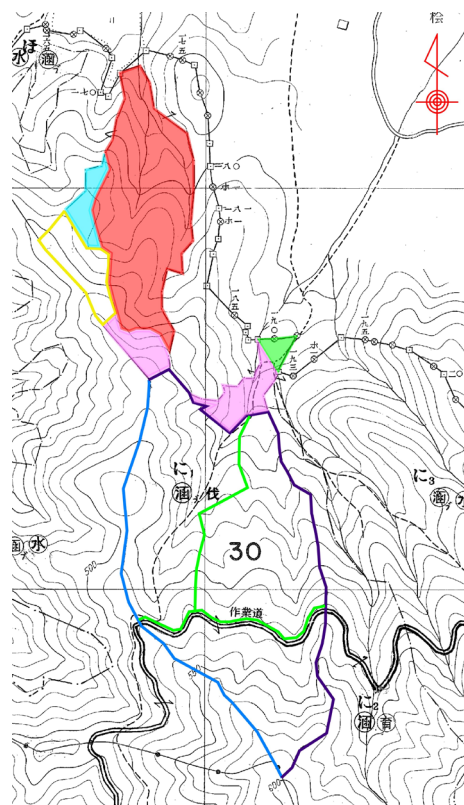
広島市安佐北区に位置する^{おしてやま}押手山国有林には比較的まとまった面積の皆伐跡地があることから、各種の研究フィールドとして活用することとしており、各種のシカ被害対策に関する試験的な取り組みを行っています。

近年、広島県内においてもニホンジカが増加しており、スギ・ヒノキ苗木の食害や樹皮の損傷による材質の低下など林業被害が問題になり始めています。

民有林においても今後増加すると見込まれる皆伐・再造林を想定し、シカの防護柵の技術普及を図るため、標準的なステンレス線入り樹脂ネット、安価なアニマルネット、広島では初めてとなる林業用鋼製ネットを使用した防護柵を設置し、それぞれのコストやメンテナンス性といったメリット・デメリットを確認する計画です。

また、大苗植栽による造林コスト低減を目的として、一部の箇所において令和7年4月にヒノキ220本を試験的に植栽しましたが、残念ながら夏場に発生したシカ食害によってほぼ全滅となってしまうことから、今後は忌避剤についても試験を行う予定です。

これらのほかにも低密度植栽や下刈省略といった低コスト・省力造林の実施、広島森林管理署では初めてとなる早生樹コウヨウザンの植栽なども計画しており、現地検討会や研修の場として最大限に活用していきたいと考えています。



ステンレス線入り (立木利用)	単木保護管
ステンレス線入り (通常)	コウヨウザン
アニマルネット	コナラ
鋼製ネット	ヒノキ大苗



食害で枯死したヒノキ大苗



鋼製ネットの設置作業